

西田裕紀の

あの農場はこうして採用に成功した

第4回



(株)Life Lab
(ライフラボ)

西田 裕紀
Hironori Nishida

1978年愛知県生まれ。2005年に会社を設立し、翌年農業法人を中心とする一次産業の求人サイト「第一次産業ネット」をオープン。同サイトの会員（求職者）数は2万人。就職実績は年1000件を誇る。外国人技能実習生の受入れを担う、アジアアグリ協同組合代表理事も務める。http://www.life-lab.co.jp/

外国人実習生を受け入れるには？

外国人の雇用は、一般的に農業の生産現場では技能実習制度で3年間の受け入れを実施している農場が大半です。中には日本人と結婚した人や永住権を持っている外国人を直接雇用されている場合もあります。今回は、農業経営者の皆さまにとって身近である技能実習制度を利用して外国人（以下、技能実習生）を受け入れる際のポイントを紹介します。

はじめに、技能実習生を受け入れるには、通常は直接受け入れを行なうことができないため、受け入れが可能な協同組合（J Aも含む）や商

工会などに依頼をすることになります。北海道などではJ Aを通じて受け入れをしている方が多いのではないのでしょうか。

1. 受け入れ組合選び（送り出し選び）

先述述べました受け入れを依頼する組合ですが、慎重に選ばないと後々のトラブル（実習生がわずか1カ月で逃亡した等）の原因となることもあり、技能実習生の受け入れの際に一番重要な選択となります。そこで、選ぶ際のポイントとして重要なのが、どういう基準で送り出し機関（送り出し国のリクルート会社）を選んでいるのかということ。この選択こそがあなたの農場で働く外国人の質を決定づけます。

働く人が良い」という要望を頂きます。どこの国でもハングリーな人はいるのですが、そのハングリーな人を送り出し機関が見つけて送ってくる可能性はそんなに高くはありません。そこで、国選びによって満たした人材が来る可能性を高めるのです。この場合は、私であればバンガラデシをお勧めします（地域や業種によっては他国が適する場合も）。また、先の組合選びのポイントと合わせて、より確率を高めることができます。

3. 人選び

人選びは組合、国を選んだ後の最後の選択となるのですが、先述の2つをきちんと選べれば、組合及び送り出し機関に任せましょう。

よく現地まで面接に向くこともありますが、現地の様子を見たり、観光も兼ねる目的であれば良いのですが、面接目的で行くと失敗に終わる可能性が高いです。日本人の場合でも同じですが、面接時の様子だけでは分からないのが普通です。ましてや外国人なので言葉もろくに通じない相手の面接は非常に難しいです。信頼できる送り出し機関のスタッフや組合に任せるのが最善です。

2. 国選び

また、受け入れしようとしている国でいくつの送り出し機関と協定を結んでいるのかも確認しましょう。1社のみだと、競争がないので仕事の質が下がる可能性があります。

国選びのポイントはずばり「実習生に求める用件の優先順位」を決定し、その上位を一番満たす国を選ぶことが重要となります。例外として、ゆかりのある国や現地で農場を営んでいるまたはこれから展開する予定がある場合などは、必然的に決まってくるでしょう。

さて、受け入れる際に必ず選択する必要があります「組合・国・人」の選

よく「とにかくハングリーでよく